

ID.	Ir023
件名	自主研究: 大震災後の都市エネルギーシステムのあり方と推進方策の研究会(その1)
年度	平成 24 年度
キーワード	大震災、被害復旧状況、地震・津波、都市エネルギー、都市インフラ
目次	→参照(下記、研究項目)
概要	1. 研究の背景と目的 東日本大震災に伴う深刻な被災を受け、地球温暖化防止を図りながら、都市の安全・安心、エネルギー自立性が求められ、新たな視点から抜本的に見直すこと求められることとなった。本協会においても、昨年「今後の都市整備とエネルギー供給についての提言」を行った。低炭素都市づくりと同時に、地震等の災害にも強く、地産地消型の自立性・事業継続性を有する「都市エネルギー供給システム」が、取り分け、「需要サイド」の視点から、新しいエネルギーインフラとして形成、推進されることが期待されている。本研究会は、こうした背景を受けて大震災後の都市エネルギーシステムのあり方とその推進方策について3ヶ年計画として研究するものである。 本年度は、その初年度で、東日本大震災の被害・復旧状況の実態調査を行い、大震災から学ぶべき内容を検討し提言を行い、今後の課題や方向性を整理する。検討に当たっては、様々な視点からの意見を反映する必要性から、関係者ヒヤリングを含め、意見交換を行い、次年度以降の推進のための方策や展開方向について検討する。 2. 調査研究項目 (1) 東日本大震災の概要 ・地震、津波、原発事故の概要 (2) 大震災から学んだこと ・東日本大震災における被害実態と復旧状況 ・市民生活、復旧・復興予算と復興庁、防災会議見直し ・復興まちづくりへの提言 (3) 提言にもとづく課題と今後の方向性
委託者	自主研究